

氏名 渡邊泰士

法科大学院等の在籍年次 2L (新3L)

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながら書き込んでいってください。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

SAGA国際法律事務所ミャンマーオフィス、2月6日～3月6日

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

インターンシップの活動としては主に以下のことを行いました。

- ・法令の翻訳作業(ミャンマー人の翻訳家の方がミャンマー語から英語に訳したものを、英語から日本語に訳す作業)
- ・法令や判例の調査活動、調査結果の報告及びプレゼンテーション
- ・当事務所のマーケティングプランの企画立案、プレゼンテーション、その企画の実行
- ・ミャンマー国内に進出した企業・団体の施設見学

事務所には日本人弁護士の方、ミャンマー人弁護士の方、日本人リーガルコンサルタントの方、ミャンマー人リーガルコンサルタントの方、ミャンマー人翻訳家の方が、それぞれ複数名いらっしゃいます。出勤時間としては、私たちは朝8時から夕方4時30分までで、昼食休憩は30分から1時間程度ありました。

3 宿舍及びその他の生活環境について

まず、前提としてヤンゴン市内の私の生活圏内はミャンマー国内でもっとも開発が進んでいる場所の1つであったので、個人的には日本ほどではありませんが生活において不自由を感じることは少なかったと思います。

住環境について、安く抑えることも考えて、ヤンゴン市内のNawadayStreetに面した、事務所近くの、ゲストハウスと似たような、小さなホテル(2人部屋・ツインベッド・食事なし・シャワー共同・トイレ共同)に1か月間宿泊していました。同室で友人と二人で生活していました。事務所までは歩いて5分程度の距離にあります。行った当時は未だヤンゴン全体の下水設備が整っていないのか、トイレに紙を流すことができずトイレ室内にあるゴミ箱に紙を捨てていました。またコンビニについて、ヤンゴン市内であれば基本的にどこにでもあります。日系のものでなくミャンマー国内の企業のものであります。スーパーもあります。薬局もホテルの近くにあります。生活用品で足りないものがあれば現地で購入できます。

食事について、NawadayStreet周辺には多くの飲食店があり、朝食はホテルの下にあるコンビニ若しくはホテル近くのパン屋で購入したものを事務所内で食べていました。昼食は事務所近くの好きなお店に入り食事をするか、お店でテイクアウトしたものを事務所で食べていました。夕食は様々なお店に入って食事をとっていました(日本風居酒屋、日本の定食料理店、タイ料理店、中華料理店、ハンバーガーショップ、カフェ、地元のローカルフード等)。また、すこし遠いですが、歩いて20分程度の距離にデパートや高級ホテルの並んだ大通りもありその周辺にも様々なお店があるためそこでも食事を楽しんでいました。料金も安く、例えばローカルフードのポークリブ・ヌードルは3000~4000チャット(250円~400円程度)でした。味も、店をある程度選んで入ってましたが、基本的においしいお店ばかりであったように思います。路上には朝早くから多くの屋台があり、地元の方たちはよくそこで食事していましたが、衛生状態は良くないと思われたため、これらの屋台で食事することはなかったです。

現地の気温は私が行った当時は最高気温が30度前後でしたが乾季ということもあり、湿気はあまり感じず暑さの割には過ごしやすい気候でした(ミャンマー国内では1年の中では最も気温が低くかつ過ごしやすい時期だったようです)。

現地での交通手段は基本的にタクシーを使用していました。タクシーの料金は交渉制なので乗る前に行き先を伝えて料金を交渉して決めていました。日本と違いそこら中にタクシーはあり、また料金はかなり安く、徒歩20分前後の距離であれば2000チャットあれば乗れたと思います。見た目から日本人又は韓国人と思われる高い料金を提示されますが、交渉すればほとんどの場合安くなるので、是非値段交渉してください。バスや電車がありましたが、ヤンゴン近郊を移動するであれば、圧倒的にタクシーが便利ですので、ヤンゴン市外の観光地へ向かう時以外は利用しませんでした。

4 出発に向けた準備等について

出発の約1カ月前に航空機を予約しましたがもっと早く予約していればより安く航空チケットは取れたように思います。生活用品は持って行ってもよいですが、ヤンゴン市内であればかなり品物はそろっているの、現地で購入することを考えても良いかと思います。薬については、効能や体質の違い、また持っていることで安心感もあるので、日本から持っていくべきだと思います(風邪薬や胃薬等)。Wifi環境もある程度整っておりほとんどのホテルやカフェ等であればFree-Wifiがあったので、パソコンも持っていくべきです。現地においてスマホでネット使用することを考えているならば、SIMフリー設定をしたスマホを持って行き、現地でプリペイドSIMを購入しスマホに差し込んで使用するのが料金的におすすめです。ポータブルWifiルーターを使うよりも料金を抑えられ、またネット通信が途切れることがほとんどないからです。

5 インターンシップに要した費用

航空機代で9万円程度、1カ月の飲食費で3~4万円程度、宿泊費が5万円程度かかりました。また毎週末に休みを利用しミャンマー国内のいくつかの観光地へ赴いたので観光費として3万円程度かかりました。

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

- ・航空機とホテルの予約はとにかく早く抑えておくべきです。ホテルは特に、長期宿泊となると予約すること自体が困難だと思い、一定程度の期間内であればキャンセルもできるので、いくつかの候補に予約をすぐ入れて後でキャンセルする方法を採っていました。複数のホテルを転々とするのも良いかもしれません。
- ・航空会社は乗り継ぎでヤンゴンー日本間を往来するのであれば、同一会社でチケットを採るべきです(関西空港ーヤンゴン間は基本的に直行便がなかったと思います)。天候等が原因でトランジットに失敗した場合(私の場合)、同一会社で乗継便を予約していれば、交渉することで代わりのチケットを用意してくれます。
- ・日本とコンセントの形式が異なるので、出発前に日本で現地に合う変圧器等を準備して持って行くべきです。ホテルであれば日本型のプラグに合う形式を導入していることもありますが、旅行先や飲食店内等は導入していない場合が多かったように思います。ポータブル充電器を持って行くのも良いと思います。
- ・日本円はミャンマーではほとんど流通していないため、予備のお金は円ではなく「ドル」で持って行くべきです。さらに言えば、ピン札の100ドル紙幣で持って行くべきです。若干ですがレートが変わり、また使い古された紙幣は両替を断られることがあるからです。カード

決済の出来るお店も多数ありますが、JCBが使えるお店は少なかったように思います、VISAであればほとんどの場合使うことができました。

- ・現地の通貨は「チャット」と呼ばれる紙幣(1万・5000・1000・500・200・100・50チャット、これらすべてが紙幣)です。日本札のように丈夫な紙は使われていないため、信じられないくらいにボロボロな紙幣が紛れていることもあるので扱いに注意してください。また支払いの際、店側にお釣りの札が無い場合があり、そういったときは小額紙幣の代わりにお菓子やポケットティッシュをお釣り代わりにくれます。その事態を避けるためにも小額紙幣を支払いのためにある程度持っておくことをお勧めします。

- ・日本と比べ圧倒的に野良犬の数が多い国だと思います。日中はほとんど寝転がっており襲われる危険などはありませんが、深夜となると活動的になるため、夜間に近づくことはお勧めしません。

- ・ミャンマー語での簡単な挨拶をメモするなどして、覚えておくの良いと思います。英語で応対するよりも圧倒的にミャンマー人の方々が喜んでくれます。

- ・なかなか訪れることのない国であり、ミャンマーという国の文化に触れるまたとない機会だと思うので、週末は可能であれば観光地を巡ることをお勧めします。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

海外留学経験のない私としては、海外インターンシップの活動に参加することについて、特に語学力の面で不安がありました。しかし不安を並べるよりも実際に飛び込んでみて出来なかったという記憶・経験を自身に焼き付けるほうが今後の人生において成長するために役立つと思い、思い切ってチャレンジすることに決めました。実際に言語・文化の異なる異国の地に長期的に滞在できたことで、自分の出来ること、そして出来ないことが再認識でき、今回のインターンシップだけで完結することなく、今後の人生においてさらなる成長を目指すための糧となる良い経験ができたと考えています。

また、現在発展を続けているミャンマーという一つの国の発展の過程や発展へ向けたエネルギーを、現地に赴いて発展過程の一部でも目の当たりにできたことは、今の時代において、数年すればミャンマーも周辺諸国同様に発展が進んでいることも考えられる以上、貴重な体験であったと思います。海外に拠点を置く事務所に学生のうちに長期的に在籍させていただくこと自体めったにない経験だと思います。またミャンマーは法整備がまさに今精力的に進められている状況にあり、新たな法令が制定され、既存の法令であっても大幅な改正が行われているところです。その状況下において、法律家としてクライアントからどのような依頼を受け、その依頼に向き合っていくかを知れたことも、これから法律家の道を目指す私

としては大きな収穫でした。

海外インターンシップに興味を持っている方は、ご自身も参加してみることを一度検討してみてはいかがでしょうか。